

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年6月30日

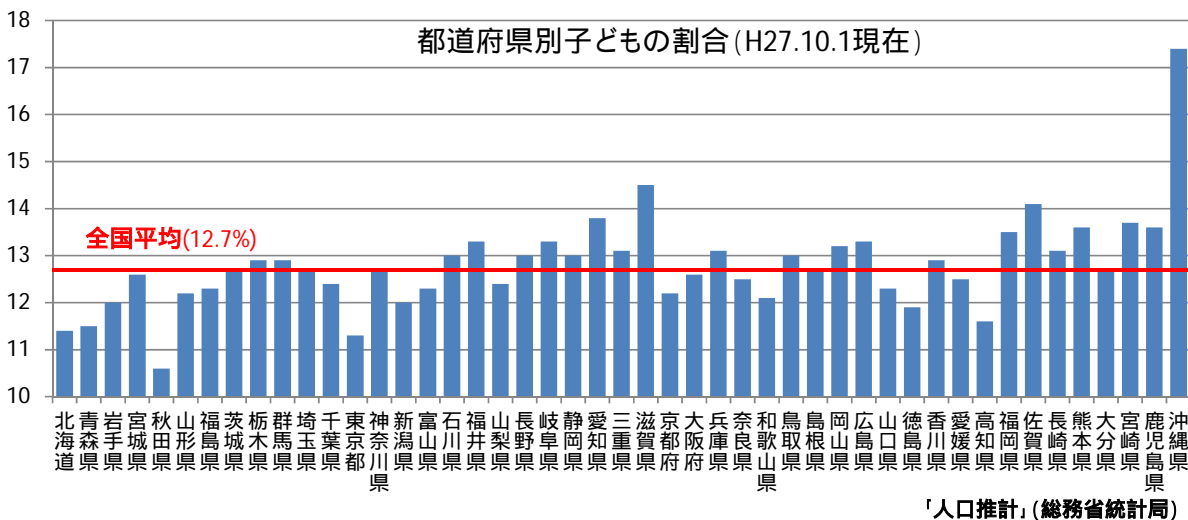
県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

日本の将来は、大丈夫なの？

昨年の国勢調査では、大正9年の調査開始以来、初めて人口が減少しました。予想はされていましたが、ショックを受けられた方も多かったのではないのでしょうか。

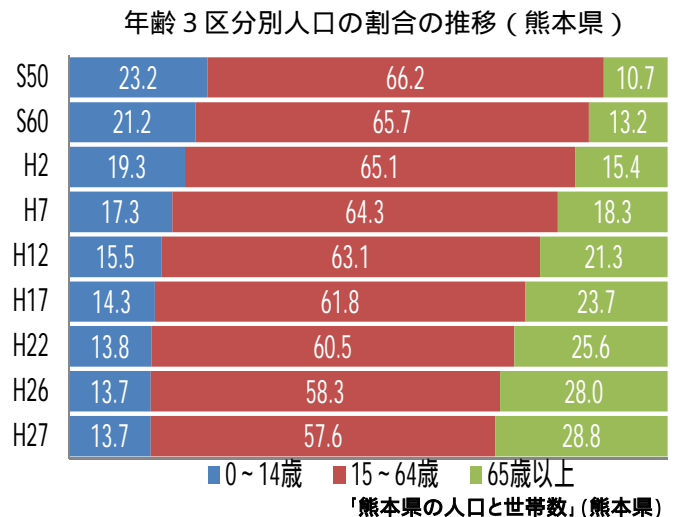
また、総務省統計局では例年5月に、4月1日現在の子ども数（15歳未満推計人口）を公表していますが、平成28年4月1日現在の全国の子ども数は1,605万人で、昭和57年から35年連続の減少、全人口に占める割合は12.6%で、昭和50年から42年連続の低下となりました。都道府県で子どもの割合が前年より増加したのは、東京都のみでした。

本県の状況を見ると、平成27年10月1日現在の子ども数（0～14歳）は24万3千人、県人口に占める割合は13.6%で、昭和30年から減少傾向が続いていますが、全国平均12.7%を0.9ポイント上回り、全国6位です。

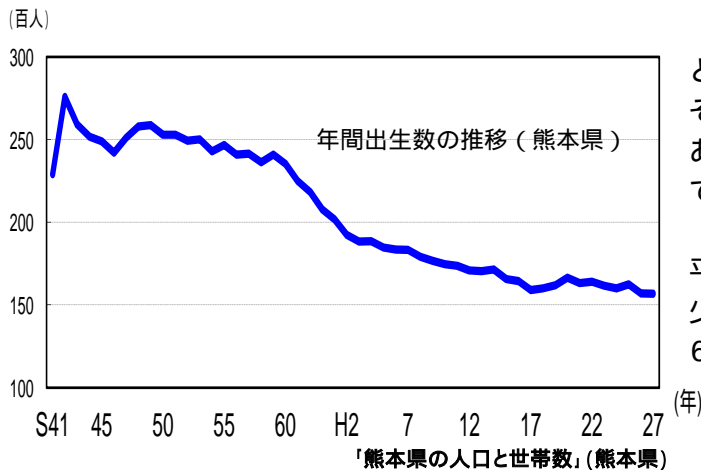
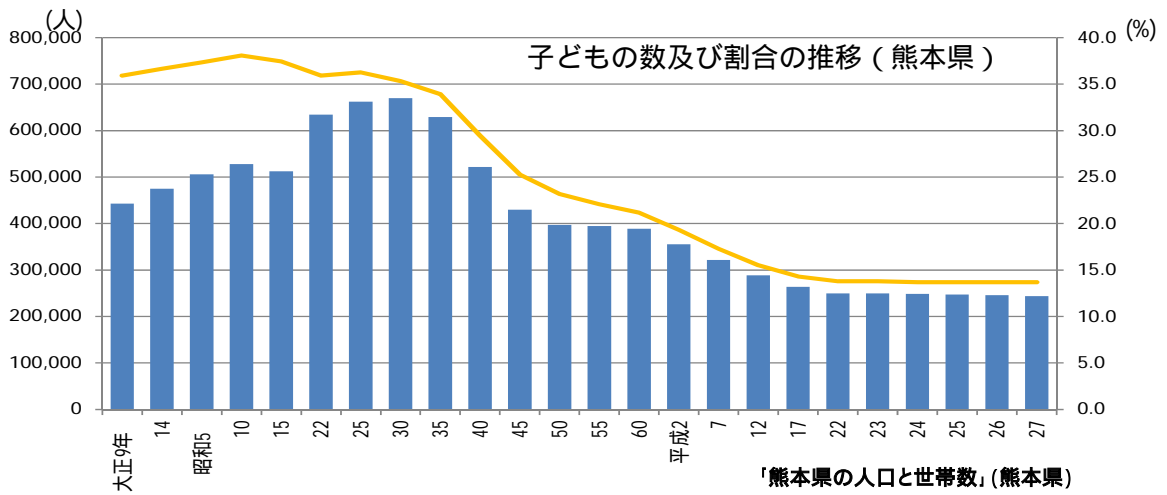


本県の年齢3区分別人口割合の推移を見ると、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）割合は、減少傾向で57.6%、全国31位。老年人口（65歳以上）割合は年々増加し28.8%で、第1回国勢調査以降、過去最高で全国21位となっています。（いずれも割合が高い方を上位としています。）

また、生産年齢人口と老年人口の割合を見ると、本県では、1975年（昭和50年）に6.2人対1人だったのが、2015年（平成27年）には2人対1人、2040年（平成52年）には、1.6人対1人になると推計されています。



「地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)及び「熊本県人口ビジョン将来展望」



本県の昭和40年以降の出生数の推移を見ると、昭和42年に27,588人とピークを迎え、その後昭和40～50年代は、多少の増減はあったものの、概ね2万4千人～2万5千人台で推移していました。

昭和60年代になると、減少傾向が強まり、平成2年には2万人を割り込み、長期的に減少傾向を示しながら、ここ数年間は1万5千～6千人台で推移しています。

将来推計人口によれば、今後日本の総人口は減少が続き、2040年（平成52年）には全ての都道府県で2010年（平成22年）の人口を下回ります。また、子どもの割合は低下し約10%になります。

これまで先進国では経験したことがないスピードで、人口減少、少子化・高齢化が進んでいます。

このままで日本の将来は大丈夫なの？ 今、私たちは何をすべきなの、何ができるの？

人口減少、少子高齢化の影響

生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地域経済規模の縮小

担い手の減少に伴うものづくり分野の技術・技能の継承困難

老年人口増加に伴う医療福祉分野の労働力不足、社会保障費の一人当たり負担増

地域活動の担い手の減少に伴う地域コミュニティ維持・存続困難、地域文化の継承困難

(熊本県人口ビジョン(概要版))

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、7月29日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp